

### (1) 加齢黄斑変性とは

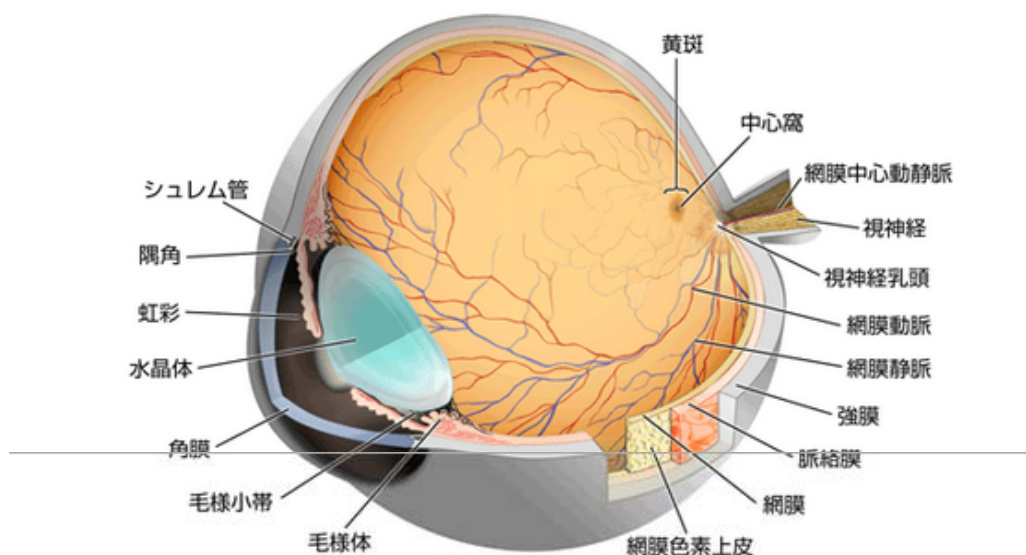
年齢を重ねるにつれ、私たちの身体はいろいろなところに病気が出てくることがあります。加齢黄斑変性もそのひとつです。

これは加齢などにより、目のフィルムにあたる網膜という組織の中心部に障害が生じ、見ようとするところが見えにくくなる病気です。高齢化社会の伸展と食生活などの欧米化により、患者数が近年著しい増加をみせており、日本の成人の失明原因第4位となっています。現在では、50歳以上の約1%が罹患していると考えられており、高齢になるほどその発症が多く見られます。

比較的近年まで有効な治療法がなかった加齢黄斑変性ですが、最近新たな治療法が開発されつつあります。また本年度(2013年)中には、IPS細胞による再生医療の治験開始が予定されています。

現在では、早く見つければある程度の視力が維持できるようになってきました。

他の生活習慣病と同様、**早期発見**が重要になってきている病気なのです。



### (2) 加齢黄斑変性の症状

#### 1. 変視症

網膜の腫れなどによって網膜が歪むと、歪んだフィルムで写真を写したように、見ているものが歪んで見えます。

中心部は歪んで見えますが、網膜の周辺部は障害されていませんので、周辺部は正しく見えるのが特徴です。

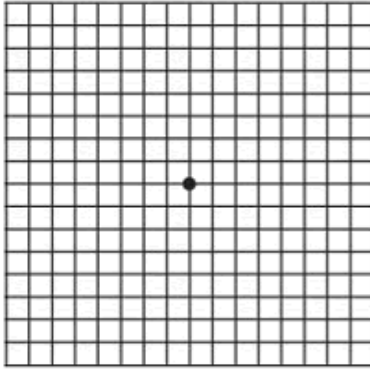
#### 2. 視力低下・中心暗点

さらに黄斑部の網膜が障害されると、真ん中が見えなくなり、視力が低下します。通常、視力低下は徐々に進行しますが、黄斑変性症のタイプによっては、網膜下に大きな出血が起こり、突然著しい視力低下が起こることもあります。

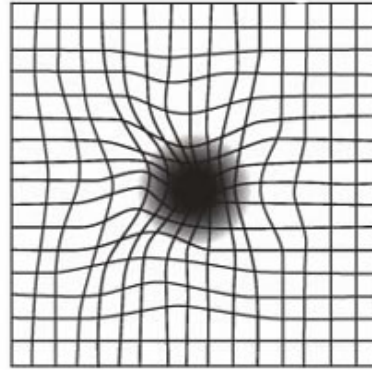
#### 3. 色覚の異常

症状が進んでくると、色の区別が分からなくなることがあります。

正常眼の見え方



黄斑変性の見え方



### (3) 早期診断に向けた取り組み

『最近、見え方が何か変だ・・・』とお感じになることがございましたら、是非お近くの眼科専門医を受診なさることをお勧めします。

また、ゆたに眼科では、日常の一般診療に加えて、眼の健康診断  
**Medical-Eye-Dock(メディカル・アイ・ドック)**  
の実施準備を進めております。

今回取り上げた加齢黄斑変性に限らず、白内障・緑内障・糖尿病性網膜症などの検査を一括してお受け頂くことができます。

詳しくはお電話等でご相談下さいませ。